

教職員研究チーム活動状況報告書

代表者の所 属・職・氏名	相生市立双葉小学校 職・氏名 教諭 相本 広幸	研究チーム名 ( 相生市コーディネーター研究会 )
-----------------	----------------------------	------------------------------

研究テーマ分類番号 ( 9 )

(1) 研究テーマ
特別な支援を必要とする幼児児童生徒のための連携支援研究
(2) 研究経過及び具体的な取組
<p>近年、メディアやさまざまな団体が主催する研修を通じて通常学級に特別な支援を必要とする児童・生徒が少なからず在籍しているという認識が教職員の間で定着してきた。それに伴って本市でも個別の指導計画や個別の教育支援計画の作成が進んでいる。その反面、小学校で作成された指導計画や校内委員会で話し合われた内容をどのように進学先の中学校に伝えるのか、指導計画が作成されていない各幼稚園・保育所からどのように情報を提供いただくのが課題となっている。そこで近年重要視されている引継ぎの在り方について本市でも検討していくことにした。また、各校園所で特別な支援を必要とする幼児児童生徒が在籍していても、対象児たちへの支援は問題行動に対しスクールアシスタントや介助員をつけたり、教室から別室へ移って学習面の個別指導を行ったりする従来から行われている方法が主流となっている。今後、人的加配が増えないことも考えられ、一斉指導における指導方法の工夫に対するニーズが高まることが予想される。そこで本研究会ではテーマと並行して障害特性をふまえた教材研究や授業展開についても研究することにした。</p> <p>4月13日 研究テーマ選定に関する話し合い 実施場所及び人数：相生市立中央小学校 11名 内容：上記の方針やテーマについて確認。 公開授業の実施日や場所、実践者や講師については今後検討。</p> <p>5月18日 個別の教育支援計画及び指導計画の作成マニュアルに関する検討会 実施場所及び人数：相生市総合福祉会館 11名 内容：昨年、本研究会で作成されたマニュアルについて実施上の課題を検討。小学校において支援を受けていた児童の中学校における対応の在り方について協議した。来年は中学校の1つに通級指導教室が設置される予定なので連携支援の方法や使用する連携支援シートの様式についてまとめていく。</p> <p>7月 6日 連携支援の方法および連携支援シートに関する検討会 実施場所及び人数：相生市総合福祉会館 11名 内容：シートについては具体的なサンプルが出された。A4～B4 1枚にまとめていく案が採択された。</p>

8月26日 サポートファイルに関する説明と中学校区毎の情報交換

実施場所及び人数：相生市総合福祉会館 11名

内容：社会福祉課から教育委員会を通して特別支援学級の在籍児童に対してサポートファイルの配布依頼がきた。説明を受けて各校で配布したが、現在、作成している個別の教育支援計画と重複するところが多いので調整が必要である。

10月12日 公開授業研修に関する打合せ

実施場所及び人数：相生市総合福祉会館 11名

内容：実施校や日時、授業者等を決定。

11月11日 公開授業研修

・実施場所及び人数：相生市立青葉台小学校 26名

第1部 第2学年での公開授業

第2部 研修会

講演：「特別支援教育から考える物語文の読解授業」

講師：兵庫教育大学大学院教授

内容：授業に関する事後研修・質疑応答

#### ◆成果と課題

今回の研修を通じて、板書の字を大きくしたり、ワークシートを用意したりする日頃の支援が、特別な支援を必要とする児童にとって有効であることが再認識できた。さらに他人の心情や表情を理解するのが苦手な児童には、前もって解説をしておく必要であることもわかった。例えば、「真っ青な顔」という表現は実際に顔が青くなることではなくて、不安な気持ちを表している比喩であることを伝える例が示された。さらに自閉症の人が他人の表現を読み取ることが苦手なことは広く知られているが、とりわけ嫌悪感を示している表情が読み取れないことを今回の研修で紹介された。つまり、日常生活でよく友だちとトラブルになる児童生徒は、他人の感情をとりちがえている恐れがあることが示されたのである。このように指導者から見ると児童・生徒の不可解な行動や言動も障害特性から考えると理解できていくのである。今後、本研修で得た成果を各校に持ち帰り、特別な支援を必要とする児童生徒等へ効果的な指導が行われることを期待したい。

#### ◆今後の予定

1月18日 サポートファイルに関する確認と中学校区毎の情報交換

2月中旬 連携支援研究のまとめ